



～トミーと学ぶ 植物の知られざる一面！～

# 心もお部屋もきれいに！



植物の機能をうまく使いこなしたい！という初心者を対象に、観葉植物を中心に様々な植物を紹介するコーナーです。不定期で連載します。

## 第3回 コンテナを寄せてディスプレイ

観葉植物の樹高が異なるものを集めます。部屋の一角に前景、後景を意識しながら、寄せ鉢していきます。世界観がまとまるように、コンテナの色彩を統一することがポイント。いかに葉の質感(厚さ、形状、色彩)が異なる種類をコレクションしていくかが重要です。室内に植物を多く取り入れることで、開放的な空間を作り出すことができ、機能面では空気清浄、リラックス効果などがあります。

### Point1 日光は窓辺のレース越しから！

植物の主食は光。窓辺のレース越しの明るさがベスト。5月～10月の間なら、ベランダや軒下の明るい日陰でも管理可能。直射日光に急に当てると、「葉焼け」を起こすので要注意。

### Point2 水やりは乾湿の差をつけて！

無酸素状態で具合が悪くなった根が嫌気性の菌に食べられてしまうことを「根腐れ」という。鉢内が濡れたままだと、嫌気性の菌が繁殖してしまう。鉢内が乾くと、根が呼吸できるようになって好気性の菌が繁殖する。乾湿の差をしっかりとつけることが水やりの極意。

### Point3 肥料もかかさずに！

植物にとって主食が光なら、肥料は植物にとっておかずにと当たる。観葉植物専用の肥料でなくても大丈夫。花用の緩効性化成肥料を鉢サイズに応じた適量を5月～9月の間に2～3回施します。

### 配色のPoint

赤い葉を持つ観葉植物を取り入れるのがポイント。緑色と赤色は補色の関係。ユッカ・デスメティアーナが紅葉してくると、よりかっこよくなります。さらに、コンテナは白色や黒色で統一すると観葉植物の緑色が映えます。緑色や青色のコンテナに統一しても、緑葉に溶け込みます。

次回は11月号 カーテンレールから吊り下げる  
予定 グリーンハンギングで室内演出!



鑑賞期間 通年

**水やり** 菜箸を根鉢に挿して抜き、握ってみて湿っていたら水やりはしません。根鉢の内部がしっかり乾燥しているか、菜箸で確認した後に水やりしましょう。

**置き場所** 室内の窓辺(年中)。ベランダの明るい日陰(5月～10月)

#### スマイラックス



(南アフリカ原産、キジカクシ科)  
鉢栽培されるほか、切り葉としても流通しコサージュなどに利用可。関西では軒下やベランダで越冬可能。

#### フィカス・ウンベラータ



(熱帯アフリカ原産、クワ科)  
鮮緑色の葉と白色の幹のコントラストが美しく、インテリアとして人気。2年に1度、大きい鉢に鉢増しする必要あり。

#### アラレア



(ニューカレドニア固有種、ウコギ科)  
細く緑が波打った葉は幼株時の特徴。成株時は葉の幅が大きくなり、葉の形状の変化を楽しめる。

#### ユッカ・デスメティアーナ



(メキシコ原産、リュウゼツラン科)  
青みを帯びた葉が美しく、寒さにあたると徐々に葉が赤みを帯び、紅葉した姿も魅力的。関西では戸外で越冬可能。

#### ポトシヤス・マルギナータ



(熱帯アジア原産、ウコギ科)  
白い斑に縁取られたまんまるの葉が特徴的で、明るい葉色が華やか。冬は10℃以上を保てる窓辺で管理。

#### フレボディウム



(熱帯アメリカ原産、ウラボシ科)  
ブルーがかった葉色を持つ珍しいシダ植物の一種。枝分かれするように葉の形が変化していく様が涼し気な印象。

#### オカワカメ



(熱帯アメリカ・熱帯アジア原産、ツルムラサキ科)  
葉腋にできるムカゴを6月に土の上に置いて、芽を出したものを。室内の窓辺でグリーンカーテンをつくれる。